

新入荷商品のご紹介

今回のコーディネートはせっかくなのでシックな小紋の雰囲気を作らないよう、銀箔と伊予紬の糸を横系に使った名古屋帯を合わせてみました。一般的に箔を使った帯はフォーマル、紬を使った帯はカジュアルとなりませんが、この帯はその両方を使っているので、フォーマルともカジュアルともいえない存在。だからこそ、あまり格式張らずそれでいて大人の品格とおしゃれさをさりげなく演出してくれるので、更紗の小紋を上手にドレスアップしてくれます。帯締めには白の三分紐に小ぶりの七宝焼きの帯留めを合わせ、帯揚げも極力主張しない、それでいて存在感のあるものを合わせ、全体的に大人っぽい雰囲気にまとめてみました。

三代目更勝 更紗小紋 367200円
伊予紬名古屋帯 216000円
KIMITO 帯留 5940円



かわちやオススメのコーディネート



twitter、facebook、
アメブロやってます。

着物・和雑貨のかわちや
フェイスブックページ

<http://www.facebook.com/kawachiya888>

もっと着物を楽しもう！
かちゅうあんブログ

<http://ameblo.jp/kawachiya/>

日々、ブログを更新しています。
着物のこと、日常のこと、音楽のことなどつづっています。
チェックしてみてください。

呉服の河内屋

〒444-0521
愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子 62
<http://www.gofuku-kawachiya.co.jp>
メール info@gofuku-kawachiya.co.jp
tel 0563-35-0039 fax 0563-35-3539

趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2015年12月号

ごあいさつ



今年一年お世話になりありがとうございました。来年もまた素敵な作品を皆様にお届けしたいと思います。良い年をお迎えください。

特集 地元の織物 郡上紬（ぐじょうつむぎ）

郡上紬とは

郡上紬は寒い地域ならではのふっくらと暖かな、柔らかい着心地が特徴。郡上の農家では、昔から「地織り」（くず繭をためてつむいで手織りでつくった自家用紬）が盛んに織られていました。一説には、平家の落人が野蚕繭をつむぎ、草や木を煎じて染めたのが前身だとも言われていますが、その伝統も明治以降に衰退してしまいました。戦後、地域に根ざした技術の振興を理想とする宗廣カ三（むねひろりきぞう）氏によってこの「地織り」が復興され、さらに研究を重ねて創り上げられたのが郡上紬です。



白洲正子（しらすまさこ）が愛した郡上紬

地元東海地方の織物として郡上紬の名前を聞いたことがある方はたくさん見えるかもしれませんが、実物を見たことのある方はあまりいないのではないのでしょうか。私も実は郡上紬を問屋さんで見かけたことはほとんどありませんし、手にした記憶すらありません。それほど貴重な織物なのです。全国にはまだまだこういった貴重な織物が存在しています。随筆家で着物愛好家としても有名な白洲正子（しらすまさこ）が愛したという郡上紬をいつかは手にしてみたいものです。

